

平成28年度  
新宿駅周辺防災対策協議会活動  
報告書

平成29年3月

新宿駅周辺防災対策協議会



# 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書

## 目次

第1章	はじめに	1
第2章	新宿駅周辺エリアの特徴と協議会活動の概要	2
2.1	新宿駅周辺エリアの特徴	2
2.2	新宿駅周辺防災対策協議会と活動の概要	3
第3章	教育訓練プログラムの実施	5
3.1	教育訓練プログラムの構成	5
3.2	新宿駅周辺防災対策協議会総会の概要	7
3.3	セミナーの概要	12
3.4	講習会の概要	22
3.5	新宿防災ウィークの概要	34
3.6	総合防災訓練の概要	38
3.7	ホームページによる情報発信	44
第4章	おわりに	45



## 第1章 はじめに

超高層オフィスビルや大規模商業ビルが立ち並ぶ中心市街地は、多数の企業と事業所が集積し、大勢の勤労者や来街者が共存する環境にある。そのため、大規模地震災害時に企業や事業所単独の対応では不十分であり、入居する建物や立地するエリア内での事業所間、さらに行政や一般市民との密接な連携による災害対応が求められる。

新宿駅周辺防災対策協議会では、新宿駅周辺エリアにおける大規模地震災害時の対応能力を向上させるための体制づくりと教育訓練プログラムを新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画の実施計画に位置づけて実践している。本報告書では、新宿駅周辺エリアの特徴と協議会活動の概要を紹介するとともに、地域の災害対応力の向上と目的として平成 28 年度に実施した教育訓練プログラムについて報告する。

## 第2章 新宿駅周辺エリアの特徴と協議会活動の概要

### 2.1 新宿駅周辺エリアの特徴

新宿駅周辺エリアの特徴について述べる。図1は新宿駅周辺エリアと災害時に拠点となる主要な施設の配置を表している。新宿区周辺エリアの大きな特徴は、夜間人口（約2万）に比べ、昼間人口（約30万）が圧倒的に多いことである。新宿駅には1日あたり約350万人の乗降客が利用する6事業者11路線の鉄道が接続し、大規模な4つの地下街（商店街）と地下歩行者通路が複雑にはりめぐらされている。

新宿駅の西口エリアと東口エリアでは地域特性が大きく異なる。西口エリアは高さ100m以上の超高層ビル約30棟を中心とするビジネス・住居地域であり、主要部は広域避難が不要な地区内残留地区である。一方、東口エリアは全国一の繁華街である歌舞伎町や新宿三丁目などの大規模な商業地域である。また、隣接する渋谷区内にある新宿駅の南口エリアも大規模な商業・ビジネス街区である。

災害時に拠点となる主要な施設として、西口エリアには東京都庁舎、災害拠点病院、西口現地本部（地域情報の集約拠点として災害時に工学院大学に設置される）などがある。新宿中央公園と超高層建物群の公開空地は地区内残留地区であり、新宿区だけでなく、隣接する中野区・渋谷区の一部住民の避難場所に指定されている。一方、東口エリアには新宿区役所（東口現地本部を兼ねる）、災害拠点病院、避難場所（新宿御苑）などがある。



図1 新宿駅周辺地域の特性と震災関連の主要施設

## 2.2 新宿駅周辺防災対策協議会と活動の概要

新宿駅周辺エリアにおける事業者等が参加する新宿駅周辺防災対策協議会の活動の概要を紹介する。新宿駅周辺防災対策協議会は、新宿区に事務局を置き、新宿駅周辺の企業、商業・集客施設事業者、商店街、大学、鉄道交通機関、ライフライン機関、警察、消防および行政機関等により構成されている。本協議会では、新宿駅周辺エリアの各事業者や施設等における災害対応と地域連携の基盤となる「新宿モデル」（情報収集伝達、避難誘導支援、医療連携、建物安全確認のしくみづくり）の実現に向けて、災害対応計画の策定、マネジメント体制の構築および人材育成に取り組んでいる（図 2）。その具体的な取組みとして、協議会は平成 24 年度より地域の事業所等の勤務者や災害対応従事者を対象とする災害対応の知識や経験を得るためのセミナーや実践的な技能を習得するための講習会、さらに身につけたものを活かした総合防災訓練で構成する教育訓練プログラムを計画し、実施している<sup>[2]-[37]</sup>。こうした活動は、図 3 に示す協議会の年間活動の中で位置づけられ、図 4 に示す PDCA サイクルによって継続されている。

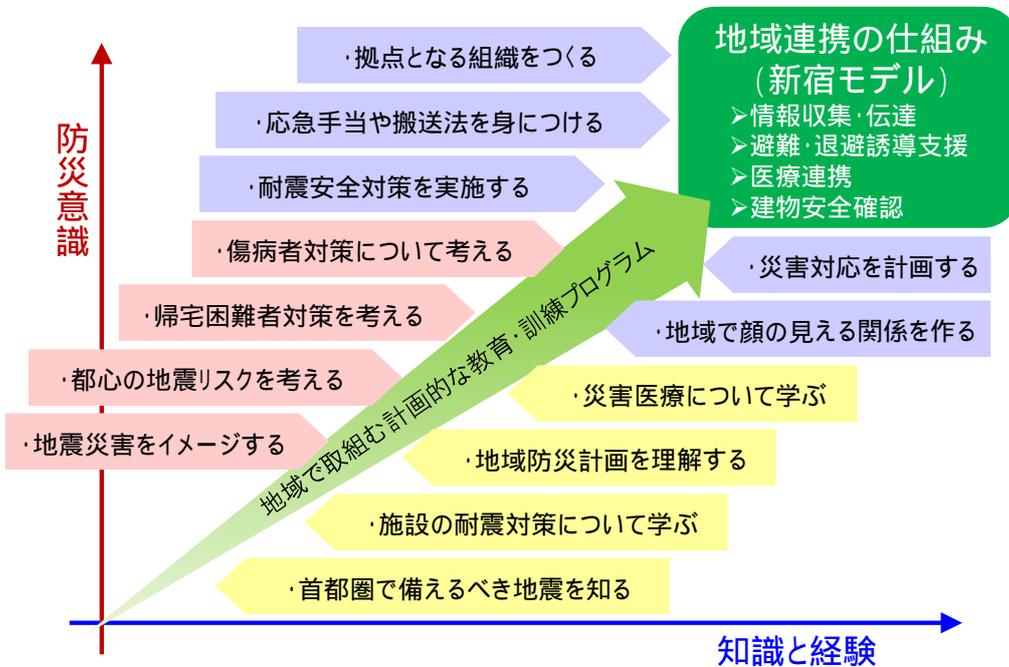


図 2 地域連携のしくみづくりのロードマップ

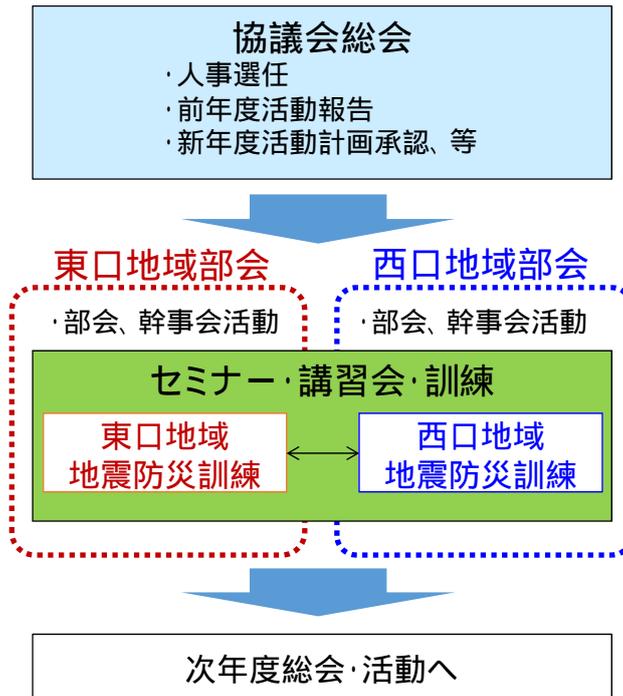


図 3 協議会の年間活動の流れ

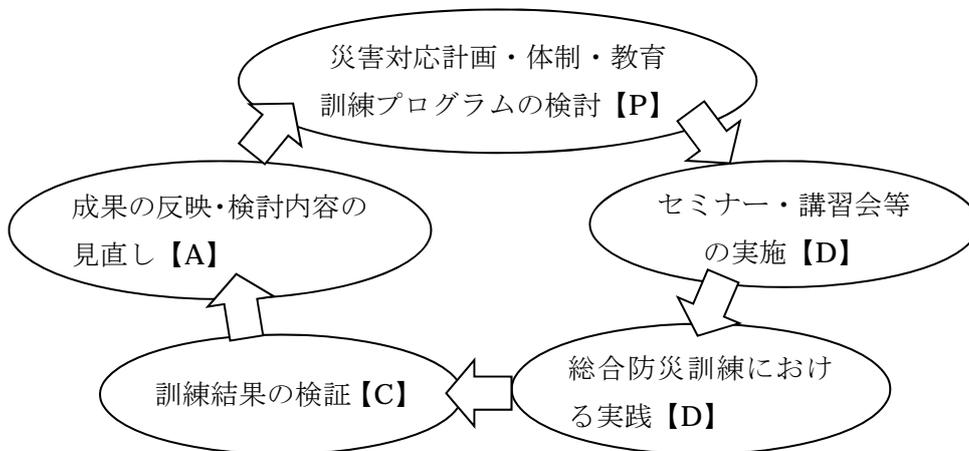


図 4 協議会の取組みを推進するPDCAサイクル

## 第3章 教育訓練プログラムの実施

### 3.1 教育訓練プログラムの構成

新宿駅周辺防災対策協議会では、新宿駅周辺地域における効果的な災害対応能力向上のための教育・訓練プログラムとして、**図 5** に示すように、1) 中心市街地や高層建物などの特性を理解し、災害や防災への関心と地域防災活動への参加を促進するセミナーやイベント、2) 自助と共助を主とした災害対応活動を実践するために必要な知識や技術を身につける講習会（トレーニング）、3) 身につけた知識や技術を活かし災害対応活動を総合的に実践できるようにする訓練、4) 訓練をふりかえり成果と課題、および改善点を認識するための検証、といった一連の学習サイクルを一年間の活動を通じて実践した。

平成 28 年度のセミナーは、地域の事業所勤務者全般を対象に、①防災活動における協業事例、②地域の災害対応ルールと行動指針、③災害時のライフライン・鉄道への影響と被害、④災害時の群衆移動と滞留者の避難誘導、⑤企業・団体の危機対応および事業継続対応、⑥災害対応における企業等の法的リスク、⑦防災・まちづくりの取り組み事例をテーマとして取り上げ、5 回にわたり実施した。講習会は、新宿駅周辺地域の訓練に参加する事業所勤務者を主な対象とし、訓練内容に対応する 4 つのテーマ（自衛消防活動、建物被害対応、応急救護、現地本部運営）を選定し、訓練実施までの約半年間に開催した。訓練は、新宿駅周辺の地域事業所と関係機関が参加する総合防災訓練として実施し、後日参加者を中心とする訓練検証会を開催した。さらに、地域の事業所勤務者等を対象に、訓練実施日を含む 10 日間を防災ウィークと位置づけ、地域で行われる様々な防災関連イベントへの参加を促進した。

**表 1** に平成 28 年度に実施した教育訓練プログラムを示す。2016 年 6 月に開催された協議会総会における年間活動計画の方針決定を受け、6 月よりセミナー、講習会を実施し、11 月に東西エリアに分かれて総合防災訓練および防災ウィーク、12 月には訓練検証会を行った。次節以降に総会、セミナー、講習会、防災ウィークおよび総合防災訓練等の実施概要を示す。

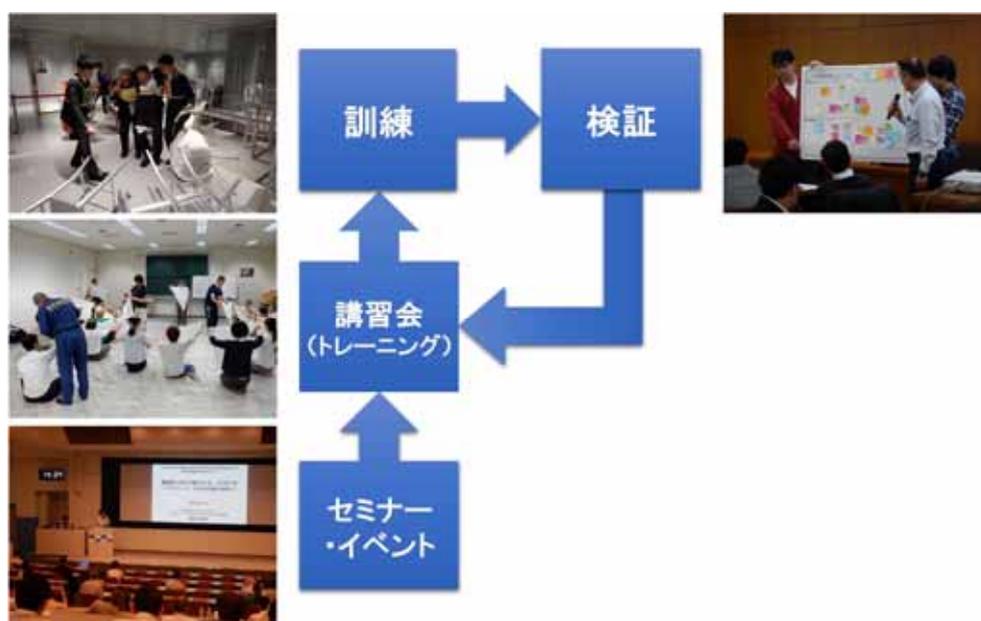


図 5 教育訓練プログラムの構成と学習サイクル

表 1 平成28年度の教育訓練プログラム

日付	項目	題目	目的	参加人数
2016 6/17	第1回 セミナー	新宿駅周辺地域が一丸 となって防災・まちづくりに 取り組もう！！	先進的な協業事例に学ぶ / 災害時に実践すべき行動 について理解を深める	88
7/26	講習会	応急救護講習会	災害時の応急救護に必要な知識と技術の習得	21
8/30	第2回 セミナー	大規模災害発生時にライ フライン・鉄道はどうなる？	中心市街地における大規模災害時のライフライン、 鉄道への影響と対策について学ぶ	47
9/16	講習会	自衛消防組織の震災対 応活動講習会	大規模施設の地震災害時における自衛消防活動の 一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および活動要 領を学ぶ	36
10/12	第3回 セミナー	新宿駅周辺にはどのような 人々がいて災害時にはどの ように誘導すればよいか？	新宿駅周辺地域の滞在者属性と地震時を想定した 群衆移動のイメージを共有する / 災害時における駅 周辺の滞在者の誘導等の考え方を学ぶ	34
10/19	講習会	建物被害対応の実践トレ ーニング	地震災害時の初動対応における建物調査の一連の 流れを体験し、建築専門家でなくても行える建物調 査の仕方を理解する	24
10/26	講習会	現地本部運営シミュレー ション訓練	現地本部の役割と運営手順をロールプレイング形式 の図上訓練で学ぶ	15
11/10	訓練	新宿駅東口地域 地震防災訓練	身につけた災害対応能力を活かし、事業所や地域 で災害対応活動を総合的に実践できるようにする / 「新宿ルール実践のための行動指針」を訓練に活用 し検証を行う	約 100
		新宿駅西口地域 地震防災訓練		144
11/10 ～ 11/19	イベント	新宿防災ウィーク	地震災害や防災対策への関心を高める	
11/25	第4回 セミナー	自組織の危機対応・事業 継続対応力を客観的に 知ろう！！	チェックリストを用いて各企業・団体の危機対応力・ 事業継続対応力を客観的に評価する	29
12/8	訓練 検証会	新宿駅東口地域 地震防災訓練検証会	地震防災訓練の実施内容を振り返り、その成果と課 題を検証する	28
12/14		新宿駅西口地域 地震防災訓練検証会		27
2016 2/17	第5回 セミナー	最新の動向や他地域の 事例を知り防災・まちづく りに取り組もう！！	災害対応における企業等の法的リスクおよび他地域 も含めた防災・まちづくりへの取り組み事例について 考える	71

新宿駅東口地域地震防災訓練を除き、参加人数には運営参加者を含まない

### 3.2 新宿駅周辺防災対策協議会総会の概要

平成 28 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会において、当該年度の協議会活動に係る議題の審議、平成 27 年度の協議会活動報告および平成 28 年度の活動計画案等に関する報告を行い、その後には講演が行った。以下に実施概要、総会プログラム（図 6）および実施状況（図 7）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 2、表 3 および図 8 に示す。

- ・名称：平成 28 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会
- ・日時：2016 年 6 月 2 日（木）14:00～16:15
- ・会場：新宿区役所 本庁舎 5 階 大会議室
- ・参加人数：95 名
- ・議事概要

(1) 開会挨拶（吉住健一 新宿区長）

(2) 総会

議長として選任された鯨井庸司氏（新宿区危機管理担当部危機管理課長）の議事進行により、以下の議題について審議がなされた。

- ・議題 1 平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 座長の選任について  
宮崎明浩氏（日本赤十字社東京都支部事業部長）を選任することで承認された。
- ・議題 2 平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 副座長の選任について  
東口地域部会長の田中真人氏（東京都赤十字血液センター新宿東口出張所長）および西口地域部会長の久田嘉章氏（工学院大学建築学部教授）の両名を選任することで承認された。
- ・議題 3 平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 構成団体名簿（案）について  
配布された構成団体名簿案が承認された。
- ・議題 4 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動報告  
宮崎明浩氏（前掲）より平成 27 年度の活動全体について、田中真人氏（前掲）より東口地域部会の活動について、久田嘉章氏（前掲）より西口地域部会の活動について、報告がなされた。
- ・議題 5 新宿ルール実践のための行動指針（案）について  
鯨井庸司氏（前掲）より新宿ルール実践のための行動指針（案）が示され承認された。
- ・議題 6 平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動計画（案）について  
鱒沢曜氏（鱒沢工学研究所代表）より平成 28 年度の活動方針案が示され承認された。
- ・議題 7 その他報告事項  
鱒沢曜氏（前掲）より新宿駅周辺防災対策協議会のホームページについて報告がなされた。
- ・質疑応答  
Q：新宿区対策本部の立ち上げは誰が判断するのか？  
A：今後の検討課題である。  
Q：現地本部は？  
A：今年の訓練時にさらに明確にしてゆく予定である。  
Q：そうした区の対策本部と現地本部間の連絡はどう考えているか？  
A：現状では防災行政無線を使用する予定だが、他の通信手段も検討している。

(3) 講演「東京都の帰宅困難者対策について」

- 永井利昌氏（東京都総務局総合防災部事業調整担当課長）による講演が行われた。
- (4) 閉会挨拶（宮崎明浩 新宿駅周辺防災対策協議会座長）

<b>平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 総会</b>	
平成28年6月2日（木） 新宿区役所 本庁舎5階 大会議室	
プログラム	
開 場	13:30
開 会	14:00
閉会挨拶	14:00 新宿区長 吉住 健一
	14:10 (1) 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 座長の選任について
	(2) 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 副座長の選任について
	(3) 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 構成団体名簿(案)について
	14:20 (4) 平成27年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動報告 日本赤十字社東京都支部 事業部長 宮崎 明浩 東京都赤十字血液センター 新宿東口出張所長 田中 真人 工学院大学建築学部 教授 久田 嘉章
総 会	14:50 (5) 「新宿ルール実践のための行動指針」(案) について 新宿区危機管理担当部 危機管理課長 鯨井 庸司
	15:05 (6) 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 活動計画(案)について 鎌沢工学研究所 代表 鎌沢 曜
	(7) その他報告事項
講 演	15:30 「東京都の帰宅困難者対策について」 東京都総務局総合防災部 事業調整担当課長 永井 利昌
質疑応答	16:00
閉会挨拶	16:05 新宿駅周辺防災対策協議会 座長
閉 会	16:15

図 6 平成28年度新宿駅周辺防災対策協議会総会プログラム



図 7 平成28年度新宿駅周辺防災対策協議会総会の実施状況  
(左上：吉住区長の挨拶、右上：会場の様子、左下：宮崎氏の報告、右下：永井氏の講演)

表 2 総会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
95名	53名	56%

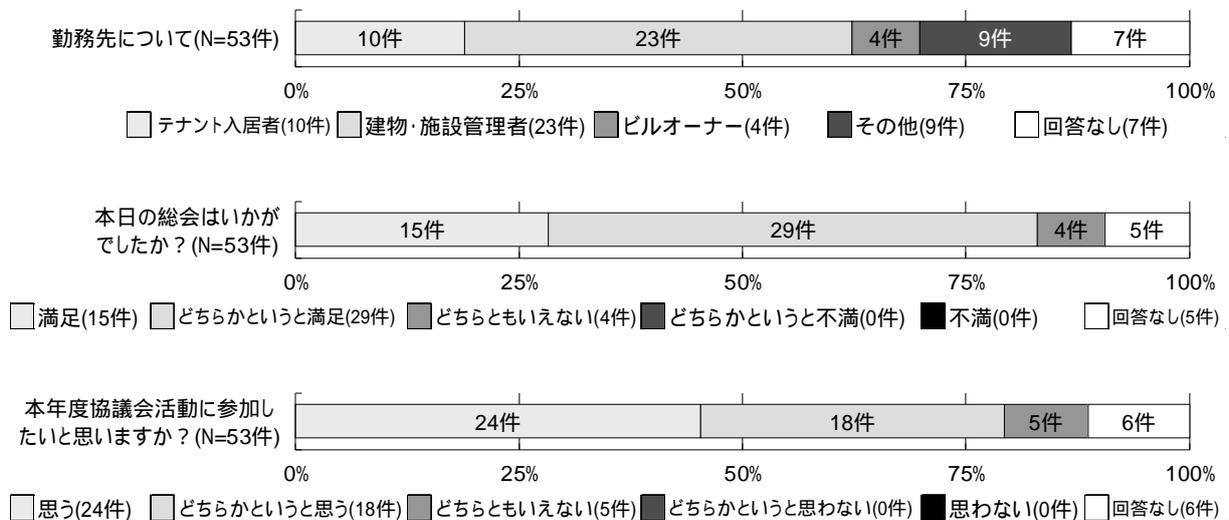


図 8 総会アンケート調査結果概要

表 3 総会アンケート調査結果概要

良かった点

- ・ 新宿ルールの行動計画指針関連資料はわかりやすく理解しやすかった。又、新宿ルールを具体的にしていこうという方針は必要だと思う。
- ・ 新宿ルール実践のための行動指針が、地域の事業所の意見がほぼ反映された内容になっている。
- ・ 大規模地震が発生した際の区としての指針が理解できた。
- ・ 新宿駅周辺の防災活動全般について、写真等を含めてコンパクトに紹介されていたこと。
- ・ 昨年度の協議会、部会の取り組みについて丁寧にご説明いただき、大変よく理解できた。
- ・ 新宿の取り組みの背景に東京都の方針との接点が見え、納得感があった。
- ・ 東京都の取り組みが聞けて、とても参考になった。
- ・ 講演にて 3.11 の知らなかったことを知ることが出来た点。
- ・ 具体的な施策を求める質問があり、その回答も聞くことが出来た。
- ・ 昨年度の活動内容が聞けたこと。
- ・ 行動指針が聞けたこと。
- ・ 説明が丁寧で分かりやすい。
- ・ 新宿ルール実践のための行動指針の内容が理解できたこと。多数の事業者が一堂に会し、諸問題を共有できたこと。
- ・ 駅前の防災対策だけでなく、都の帰宅困難者対策の説明があった点。
- ・ 新宿ルール行動指針について Q&A の内容でよりわかりやすくなった。
- ・ 必要に応じて現地本部について質問させてもらい、理解した。
- ・ 帰宅困難者対策について、条例をはじめ、内容を再確認することが出来てよかったと思う。
- ・ 具体的に協議会の流れが把握できた。
- ・ 新宿ルール要望に対して真摯に検討修正していただいた。
- ・ 協議会の方針、方向性が見えた。
- ・ 委員の質問等への的確な応答や資料等への確実な掲載（反映）など事務局の取り組み姿勢、加えて質問等は少なかつたものの出席者の様子から取り組み意欲がうかがえわれ、管内で最も混乱が予想される新宿駅への不安が減少された。
- ・ 前回の説明会での質疑応答について、わかりやすくまとめられており、意見を取り入れて工夫された点も良かったと思う。

改善点

- ・ 地下街という特異性を踏まえて、危険実態を念頭に今後の行動指針を策定する必要がある。
- ・ 質疑応答の時間をもう少し長く設定すると良いと思う。
- ・ 新宿ルールの説明について関連資料が多く、複雑な印象を与えた。
- ・ 講演でほかの協議会の取り組みの詳細を聞きたかった。
- ・ 報告時間が長くなってしまった。
- ・ マニュアルにとらわれすぎないよう柔軟な発想で訓練の検証結果を踏まえて、常に改善を図っていただきたいと思う。
- ・ 新宿駅周辺の対策が必要なのはわかるが、地域(例：マンション住民)との関係(どの程度まで考慮)が心配だ。
- ・ 新宿駅前の防災対策(新宿ルール)について、網羅的な説明があるとよりわかりやすかったと思う。
- ・ 想定外規模の震災も考慮する必要がある。
- ・ 時間が短いのでは。

本年度の協議会活動に期待する内容・意見

- ・ 訓練では東口、西口で実際に連携を取り、情報共有の訓練等を行なったかどうか。
- ・ 部会活動を充実させていきたい。
- ・ 全体訓練の計画と実施。帰宅困難者対策の継続、更新。
- ・ 帰宅困難者の避難誘導要領の実践。緊急連絡体制の整備。
- ・ 新宿ルールの改定に際して改正案に対する意見を求め、そして会議の席上でも改正に対する審議がなされたにもかかわらず、次回、突然、改正はしないとの報告がなされたのはいかがなものか。
- ・ なぜ東口部会員には西口部会の報告書を配布しないのか理解できない。
- ・ 指針に基づく行動の個別マニュアルの策定を期待している。
- ・ より実践的な活動になることを期待している。

- 実際の災害がイメージできるような図上演習。
- 新宿ルールについて世間へ情報を流すべき。自分の命を最優先のルールづくりと自分の命は自分で守ること。帰宅困難者はボランティアになるべき。
- 建物の安全確認の習熟。
- 施設同士の連携方策。
- 区を中心とする効果的な情報連絡体制方策。
- 出来る限り各活動に参加していきたいと思う。
- 防災対策協議会訓練の中で、災害対策本部と現地本部の連絡手段についての訓練も取り入れたらよいと思う。
- 実践的な帰宅困難者の受け入れ、避難方法などについてセミナーに取り入れていただきたい。
- 様々なケースを想定し、具体的に発生しうる事態にどのような対応が求められるのか、検討する場を設けていただけるとありがたい。（電気や水道などのインフラが長期間途絶するケース、周辺市域で大規模な火災が発生し、建物内への滞在が出来なくなるケース等）
- 熊本地震の教訓とBCP評価。
- 新宿ルール実践のための行動指針に関する訓練等の実施を希望する。
- セミナー等には出来るだけ参加させて頂き、自社への対策等に役立てたいと思う。

### 3.3 セミナーの概要

#### 3.3.1 第1回セミナー

第1回セミナーでは、防災・まちづくりにおける先進的な協業事例に学ぶとともに、災害時に実践すべき行動について理解を深めることを目的とし、関連する2題の講演を行った。以下に実施概要および実施状況(図9)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表4、表5および図10に示す。

- ・ 題目：新宿駅周辺地域が一丸となって防災・まちづくりに取り組もう！！  
～先進的な協業事例に学ぶ&「新宿ルール実践のための行動指針」の活用等～
- ・ 目的：先進的な協業事例に学ぶ/災害時に実践すべき行動について理解を深める
- ・ 日時：2016年6月17日(金) 14:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階 アーバンテックホール
- ・ 参加人数：88名
- ・ プログラム  
講演①「地域をつなぐ場づくり、人づくり ～プラス・アーツ、KIITOの活動を事例に～」  
NPO法人プラス・アーツ理事長、デザイン・クリエイティブセンター神戸副センター長 永田 宏和 氏  
講演②「「新宿ルール実践のための行動指針」に基づく今後の取り組み等について」  
新宿区危機管理担当部危機管理課長 鯨井 庸司 氏



図9 第1回セミナーの実施状況

表 4 第1回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
88名	51名	58%

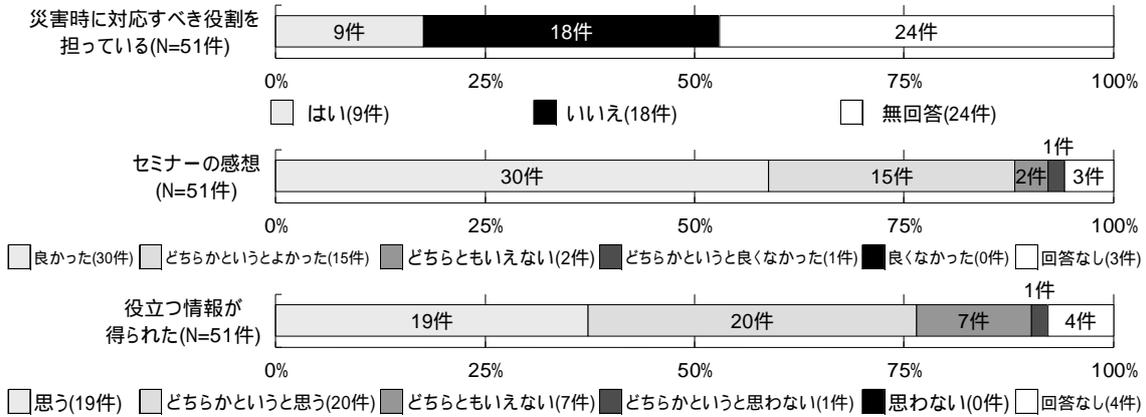


図 10 第1回セミナーアンケート調査結果概要

表 5 第1回セミナーアンケート調査結果概要

<p>「新宿ルール実践のための行動指針」およびこれに基づく今後の取り組み等に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一回限りの外国人観光客の避難と他の防災対策等について。</li> <li>・ 滞留者への告知に事業者のWEBを使用するなど、呼びかけてはいかがか？</li> <li>・ 「新宿ルール」と「行動指針」は極めてシンプルだが、規範としての説得力が極めて弱い。それをブレークダウンした？「行動」と今後策定する個々のマニュアルが実行力を伴うものになるか、ちょっと疑問と不安を感じる。</li> <li>・ 9/4 戸山公園にて行われるカエルキャラバンは防災訓練の一部で行われるのか？それとも単独なのか？企業の協賛は募るのか？税金だけで行うのか？規模集客はどのくらいを予定しているのか知りたい。</li> <li>・ 個別事業者の行動はわかったが、街としての取り組みはどうなるのか。エリマネなどは活用しないのか？</li> <li>・ 車で来ている人はどうするか。どう仕向けるか。</li> <li>・ 新宿ルールを改正せず行動指針を作っても相互の調整が全くなされてないのではないか。</li> <li>・ すべての予定や対策を一度に推進することは難しいので、できることからやるべき。とくにマンパワーの厳しい条件、夜間、休日の対応がポイントになる。</li> <li>・ 難しい部分もあるかと思うが、わかりにくいいため、理解しにくいと思う。もう少し簡潔に表現・表示して頂けると、一般の方にも理解されていくかと思う。</li> <li>・ 災害危険度が高い新宿では、エリア毎の災害の予測・予防と対応について防災対策からエリアの事業継続の検討が必要だと思う。</li> <li>・ 事業者の行動である、安全確認～屋内滞留者の保護が大変難しいと考えている。所有者責任の点から、災害発生時の安全確認は、より慎重かつ危険サイドにたって行わなければならない、震度6以上のこれまで経験がないような地震の際には安全の確認ができないことにより各フェーズとも来街者等を受入れ保護することは実質的に不可能であると考えている。</li> <li>・ とても分かりやすかった。少し専門用語が多い。初めて聞く言葉だとよくわからない。</li> <li>・ 一部の通路で緊急地震速報が流れると言ったが、その後の放送で新宿ルールにつながる内容の放送を行ったほうがよいと思う。</li> <li>・ 各事業所に防災への取り組みを紹介（情報共有）する場を設けてはどうか。お互いのことを知らないのでは。</li> <li>・ 部会を中心に具体的な流れを確認できる機会があればよい。</li> <li>・ 資料構成が悪くどこの資料を見たらよいのかわからなかった。</li> <li>・ 今後も訓練などで検証を重ねてほしい。またうまくできるようであれば負荷をかけてより良いものにしてほしいと思う。</li> <li>・ 地震 ITSUMO グッズの活用。</li> <li>・ 正直複雑になりつつあり、どの程度協議会同士が協議会の活動に対する認識をしているのか私自身が不安になった。</li> <li>・ キャッチフレーズなどを作って簡単明瞭なルールブックの作成も必要かと思う。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3.3.2 第2回セミナー

第2回セミナーでは、中心市街地における大規模災害時のライフライン、鉄道への影響と対策について学ぶことを目的とし、関連する2題の講演を行った。以下に実施概要および実施状況(図11)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表6、表7および図12に示す。

- ・ 題目：大規模災害発生時にライフライン・鉄道はどうか？
- ・ 目的：中心市街地における大規模災害時のライフライン、鉄道への影響と対策について学ぶ
- ・ 日時：2016年8月30日(火) 14:00～16:50
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1・第2会議室
- ・ 参加人数：47名
- ・ プログラム

講演①「電気・ガス・水道・通信等につかえるのか？ーライフラインの地震被害と対策ー」

岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏

講演②「大規模災害(地震・風水害)時に鉄道はどうか？ー東京メトロの災害対策ー」

東京地下鉄株式会社 鉄道本部 安全・技術 防災担当 課長 町田 武士 氏

ホームページを活用した目的別学習法のご紹介

新宿駅周辺防災対策協議会事務局



図 11 第2回セミナーの実施状況

表 6 第2回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
47名	40名	85%

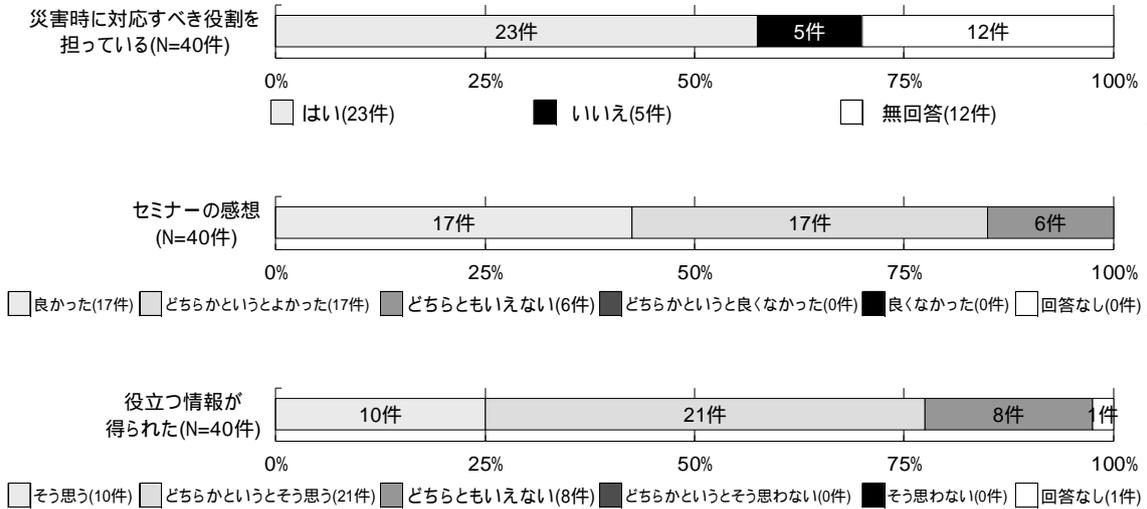


図 12 第2回セミナーアンケート調査結果概要

表 7 第2回セミナーアンケート調査結果概要

<p>防災対策に役立つ情報が得られたと思うか？について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役に立つ話ばかりで参加してよかった。</li> <li>・ 正確な資料をいただいているので、所属員に共有できる。</li> <li>・ 一時滞在施設の拡大に特に尽力すべき地域について、鉄道の運転状況の視点から改めて認識させられた。</li> <li>・ BCP 作成に役だてたい。</li> <li>・ 社内係員の具体的行動にどのようにつなげるのか？</li> <li>・ 東京メトロの防災対策、都市減災プロジェクトの概要（各企業で使うときの著作権対応は？）を知ることが出来たこと。</li> <li>・ ライフライン対応の現状がわかった。</li> <li>・ ライフラインの現状が理解できたこと。</li> <li>・ 最新の内容があった。</li> <li>・ 組織の職員、サービスの対象者に（公的な）備え、予防対策を啓発しているものの、必要性、どこまでの対策という認識が届かない。災害に対する、インフラや建物などの問題からフローチャートのような形式で対応を理解してもらい必要性を感じる。</li> <li>・ ライフラインと交通網に対する対策と現状。また、予想を上回る大規模災害に対する不安はさらに深刻に受け止めている。（Ex 益城町 etc）→南海トラフ</li> <li>・ 災害発生時のライフラインの状況を踏まえ、備蓄品の充実化等対策をさらに進める必要があると感じた。</li> <li>・ 直接にすぐ役立つ情報ではなかった。</li> <li>・ ライフラインへの影響と、自助対策について。</li> <li>・ 特に水害対策。</li> <li>・ 弊社は人数が少ない状況。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3.3.3 第3回セミナー

第3回セミナーでは、新宿駅周辺地域の滞在者属性と地震時を想定した群衆移動のイメージの共有、および災害時における駅周辺の滞在者の誘導等の考え方を学ぶことを目的とし、関連する2題の講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図13）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表8、表9および図14に示す。

- ・ 題目：新宿駅周辺にはどのような人々がいて災害時にはどのように誘導すればよいか？
- ・ 目的：新宿駅周辺地域の滞在者属性と地震時を想定した群衆移動のイメージを共有する／災害時における駅周辺の滞在者の誘導等の考え方を学ぶ
- ・ 日時：2016年10月12日（水）14:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1・第2会議室
- ・ 参加人数：34名
- ・ プログラム

講演①「新宿駅周辺地域の滞在者属性と地震時を想定した群衆移動のイメージ」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域研究戦略部研究企画室 企画主幹

山下 倫央 氏

工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授 村上 正浩 氏

講演②「災害時における駅周辺の滞留者の誘導等の考え方」

株式会社セノン 経営企画グループ統括／取締役常務執行役員 上倉 秀之 氏

株式会社セノン 教育部 課長 富樫 肇 氏

ホームページを活用した目的別学習法のご紹介

新宿駅周辺防災対策協議会事務局



図13 第3回セミナーの実施状況

表 8 第3回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
34名	21名	62%

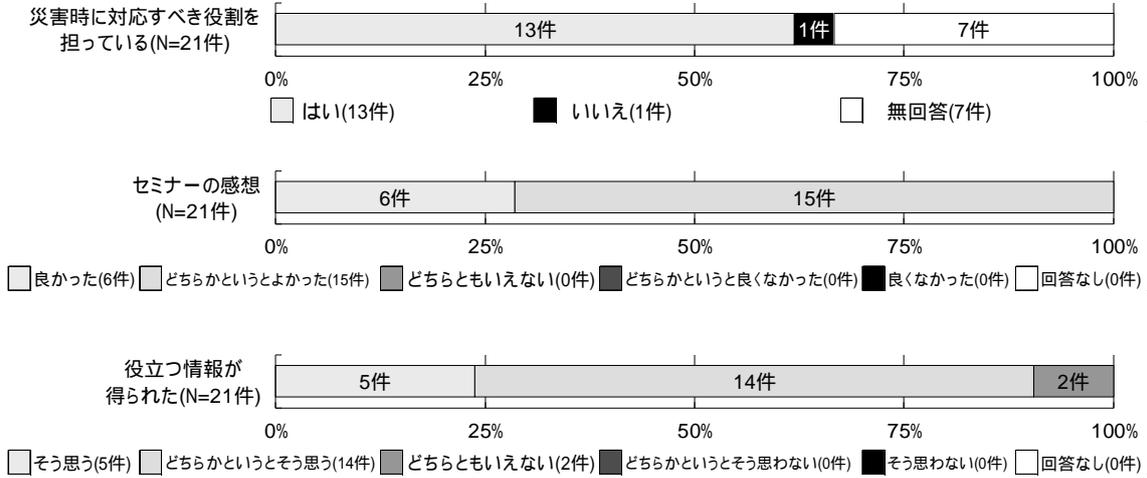


図 14 第3回セミナーアンケート調査結果概要

表 9 第3回セミナーアンケート調査結果概要

<p>防災対策に役立つ情報が得られたと思うか？について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織としての防災対策には直接の関連性はまだ見えない。</li> <li>・ シミュレーションの動画を見せると、視覚的に訴えることができると思った。</li> <li>・ 講演②を職場の中で考えていきたい。</li> <li>・ 群集心理を踏まえた建物内での避難誘導への活用。</li> <li>・ メンバーに共有しようと思った。</li> <li>・ 具体的で分かりやすい。</li> <li>・ 最新の内容があるが、自社において活用できない部分もある。</li> <li>・ 特にイベント時など、資料 2（講演②）については現時点で有効である。非常時に関しては新宿ルールをいかに周知してもらおうかが問題である。</li> <li>・ 決めなければいけないことが多いと感じた。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3.3.4 第4回セミナー

第4回セミナーでは、チェックリストを用いて各企業・団体の危機対応力・事業継続対応力を客観的に評価することを目的とし、関連する講演および演習を行った。以下に実施概要および実施状況(図15)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表10、表11および図16に示す。

- ・ 題目：自組織の危機対応・事業継続対応力を客観的に知ろう!!
- ・ 目的：チェックリストを用い各企業・団体の危機対応力・事業継続対応力を客観的に評価する
- ・ 日時：2016年11月25日(金) 14:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1・第2会議室
- ・ 参加人数：29名
- ・ プログラム  
講演・演習「危機対応力自己診断セミナー ～あなたの組織の危機対応力がわかる～」  
一般財団法人レジリエンス協会 社会セキュリティ研究会  
(NTTセキュアプラットフォーム研究所 主任研究員)  
爰川 知宏 氏  
一般財団法人レジリエンス協会 社会セキュリティ研究会  
(大成建設株式会社 ライフサイクルケア推進室 耐震推進室 主事)  
天野 明夫 氏

ホームページを活用した目的別学習法のご紹介

新宿駅周辺防災対策協議会事務局



図15 第4回セミナーの実施状況

表 10 第4回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
29名	22名	76%

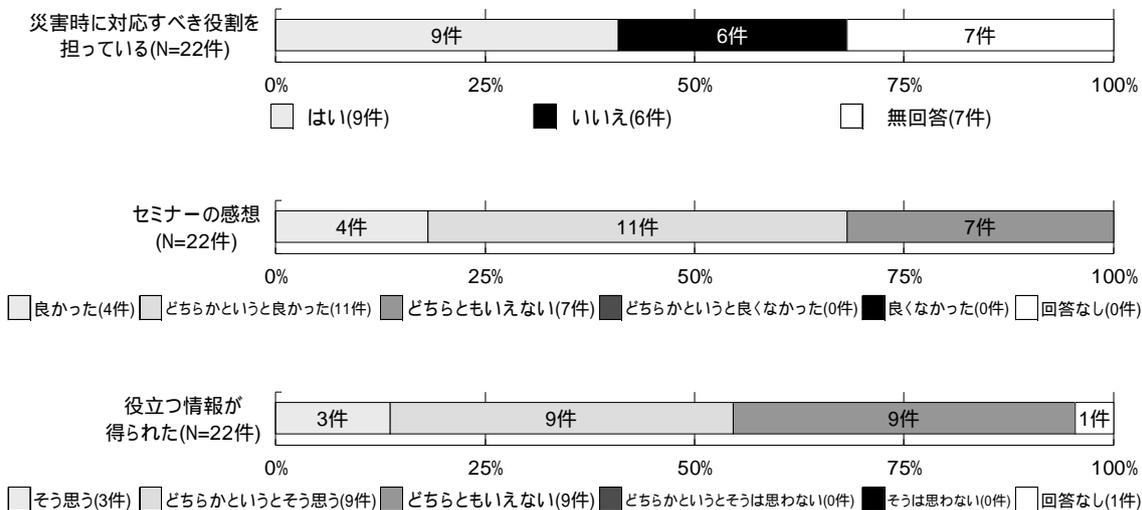


図 16 第4回セミナーアンケート調査結果概要

表 11 第4回セミナーアンケート調査結果概要

<p>防災対策に役立つ情報が得られたと思うか？について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェックリストは役に立つ。</li> <li>・ 必要性和実際のギャップがグラフで見れるので、社内でもチェックリストを用いてみたいと感じた。</li> <li>・ 標準化した手法であり、あらゆるリスクに対応するためには、あまり有効な手法と思えない。具体的でない。学問的、研究的には、おもしろいと思う。</li> <li>・ 情報の持つ意味、大切さを知った。</li> <li>・ こういうチェックリストがあることを知ることができた。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3.3.5 第5回セミナー

第5回セミナーでは、災害対応における企業等の法的リスクおよび他地域も含めた防災・まちづくりへの取り組み事例について考えることを目的とし、関連する3題の講演を行った。以下に実施概要および実施状況(図17)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表12、表13および図18に示す。

- ・ 題目：最新の動向や他地域の事例を知り防災・まちづくりに取り組もう!!
- ・ 目的：災害対応における企業等の法的リスクおよび他地域も含めた防災・まちづくりへの取り組み事例について考える
- ・ 日時：2017年2月17日(金) 14:00~17:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階 アーバンテックホール
- ・ 参加人数：71名
- ・ プログラム

基調講演「災害対応における企業等の法的リスクと事業者連携による地域防災のポイント」

丸の内総合法律事務所 弁護士 中野 明安 氏

講演①「業務市街地における災害時の食」

一般財団法人都市防災研究所 守 茂昭 氏

講演②「横浜駅西口共同防火防災管理協議会の防災・減災・危機管理対策」

株式会社相鉄ビルマネジメント 荒巻 照和 氏



図 17 第5回セミナーの実施状況

表 12 第5回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
71名	47名	66%

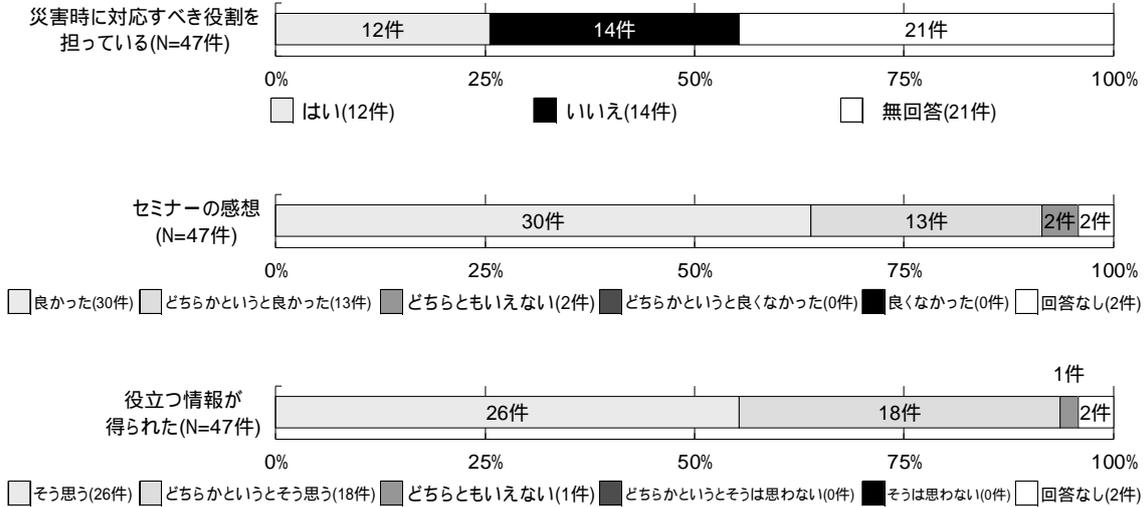


図 18 第5回セミナーアンケート調査結果概要

表 13 第5回セミナーアンケート調査結果概要

<p>防災対策に役立つ情報が得られたと思うか？について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中野氏の内容は経営陣が知りたい点（対応・対策しようとする）が盛り込まれており、さっそうく実行できるものである。</li> <li>・ 事業者の権利と義務について確認が出来た。具体的取り組みが参考になった。</li> <li>・ 法的リスク対策を検討していくうえで大変役立つ。</li> <li>・ BCP 見直しや防災備蓄選定取組中のため、とても勉強になった。</li> <li>・ 一般市民としてどう対応してゆくかも改めて考えることができた。</li> <li>・ 帰宅困難者対応など BCP に付加したい非常食なども参考になった。</li> <li>・ 法的な部分と、危機管理対策は検討する時の手本となると感じた。</li> <li>・ 具体的なアクションにつながる内容が含まれていた。</li> <li>・ 問題点の提示、考え方の整理、具体例の説明で理解を促進された。</li> <li>・ 町内会等小さな単位でも必要。</li> <li>・ 午後半日の長丁場とはなったが、各々のテーマが違った角度で講演されていて、あきることなく、拝聴できた。</li> <li>・ 基調講演の内容（法律）が自分の業務（コンサル）に活用できそうと感じた。</li> <li>・ ビルの受け入れ態勢をどうするか？</li> <li>・ 組織の構成員にここまでの理解意識はない。</li> <li>・ 企業として何に留意すべきか重要なポイントを学べた。</li> <li>・ 地域との協力が必要だと思う。</li> <li>・ 乏しい知識の中で問題点を確認することができた。車内で関連部署と確認したいと思う。</li> <li>・ 行政との災害時協定や備蓄品の整備方針等について、本日聞くことができた内容を盛り込んでいきたい。</li> <li>・ 新たに触れる知見が多かった。</li> <li>・ 地域の活動としたいが、周囲がまだその機運にない。</li> <li>・ セミナー等で活用したい。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3.4 講習会の概要

#### 3.4.1 応急救護講習会

応急救護講習会では、大規模災害時の応急救護に必要な知識と技能の習得および実践的なトレーニングを目的とし、座学と実技の講習および総合演習を行った。以下に実施概要および実施状況（**図 19**）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を**表 14**、**表 15**および**図 20**に示す。

- ・ 題目：応急救護講習会
- ・ 目的：災害時の応急救護に必要な知識と技術の習得
- ・ 日時：2016年7月26日（火）13:00～18:00
- ・ 会場：日本赤十字社東京都支部 4階 第1会議室
- ・ 講師：日本赤十字社東京都支部 事業部長／新宿駅周辺防災対策協議会 座長 宮崎 明浩 氏  
東京消防庁新宿消防署 救急技術担当係長 安田 不二夫 氏
- ・ 参加人数：21名
- ・ プログラム
  - 1) 座学講習
  - 2) 実技講習
  - 3) 総合演習



図 19 応急救護講習会の実施状況

表 14 応急救護講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
21名	20名	95%

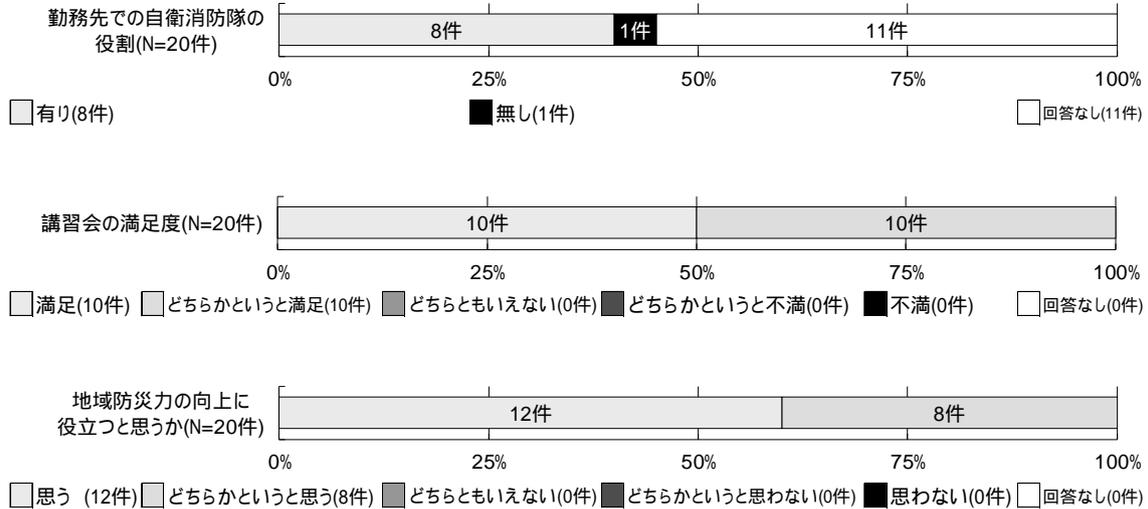


図 20 応急救護講習会アンケート調査結果概要

表 15 応急救護講習会アンケート調査結果概要

<p>具体的に役立つと思う講習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合演習は自分の職場でも使えるのでとてもためになった。</li> <li>・ 実技の止血、三角巾、搬送方法</li> <li>・ 実技</li> <li>・ 傷病者の移動の仕方。毛布による担架搬送。総合演習でまずは歩ける人を集めてしまうという作戦。</li> <li>・ 実際に使用することがほとんどない三角巾やトリアージタグが配布されて非常に良かった。</li> <li>・ 実技は何回でも繰り返し受講して、知識・スキルを身につけたいと思った。上級救命講習を受講したので易しいと感じた。</li> <li>・ 総合演習は体験できて良かった。</li> <li>・ 担架による搬送方法。三角巾の使用法。</li> <li>・ 座学と実技そして復習という形の総合演習があり、良かった。</li> <li>・ 総合演習は良かった。これをもう少し時間を取っていただきたい。</li> <li>・ 実技講習の三角巾、ストッキングの活用。総合演習での実際の災害を想定した訓練。どのように動いたら良いか学べた。</li> <li>・ 三角巾の色々な使い方。ストッキングや身近なもので応急処置が出来るとわかってとても参考になった。</li> <li>・ 総合演習が実践的で初めて経験してとても勉強になった。</li> <li>・ 実技講習。骨折者への対応について。</li> </ul> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害が起こった際は、医療従事者や消防、行政の職員だけでは対応しきれないと思う。そのため、動ける人が負傷者を助けることが必要になってくると思うので専門職に限らず、一般の人でも参加して応急手当などを学べる機会は首都直下型地震が予測されている今、とても必要なことだと思った。継続してやらないと忘れてしまうと思うので、またこのような研修があれば参加したい。</li> <li>・ 消防の方などの話が聞けてとてもためになった。</li> <li>・ 座学と実技のバランス。消防署との連携。</li> <li>・ 全体的に良かった。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ・ 人数がちょうど良かった。座学と実技の時間のバランスが良かった。総合演習は実際の災害現場を感じる事が出来てよかった。宮崎さんの話がわかりやすく、実技も流石であった。安田さんの重傷者の判断基準の話がとても参考になった。
- ・ 総合演習は実技の内容を振り返ることが出来て、大変に良い経験になった。参加者同士が顔見知りになった。
- ・ 実技の時間に知らない人と組んだのが実際の現場に近くて良いと思った。担架搬送や人を持ち上げて救出するという体験が出来て良かった。
- ・ 総合演習の実施。
- ・ 応急救護について知識を確認、また新たに知識を得ることができた。
- ・ コンパクトな講習会でよかった。
- ・ 総合演習。
- ・ 三角巾等の活用方法がわかりやすく現場で活かしていけると思った。総合演習は体験できて勉強になった。色々な場面を想定して訓練していくことが大切だと感じた。
- ・ 具体的な災害現場を設定し、実習できたのでイメージが出来た。
- ・ 実技演習と総合演習で応用範囲が広いスキルを学べた。
- ・ 身体を動かしながら、実際の動きを体験できたこと。
- ・ 総合演習はまともにできないとはいえ、動きが伴ってわずかながらシミュレーションできた事はとても大きいと思った。三角巾もまともに扱えず、情けなかった。

#### 改善点

- ・ 実技でいろいろな応急手当を教えて頂いたのはとてもありがたかったが、理解する前に次に進んでしまった。しかし、限られた時間の中では仕方ないと思うので、YouTube で復習できると教えて頂いたので、職場や自宅で復習しようと思った。
- ・ 現場でも活かしていきたい。
- ・ 17時までに終わると参加者が増えるのではないか。
- ・ 傷病者観察記録シートは意識のない人もいるので首から下げられる何かに入れられたら良いと思った。かけ足でもう少し1つずつしっかり行いたかった。
- ・ 総合演習時に助ける側は自衛消防隊なのか？想定月日が不明なことと時間経過がわかると良いと思った。
- ・ 実技の時間が短かった。総合演習がより危機迫る状況で人手が足りず、AED 使用や4人だけで応急処置をしなくてはならない等の難易度アップをした方が良いと思う。
- ・ 救命資格をもっている方には物足りないと思う。識者クラス、活動者クラスと分けても良いと感じた。
- ・ イメージトレーニングのためにも映像の紹介をお願いしたい。
- ・ それぞれの時間をもう少し時間をかけてマスターしたかった。
- ・ AED や胸骨圧迫なども普段やらないので取り入れて欲しい。
- ・ AED 等も含めても良いと思う。
- ・ 体力のある人なら出来るかもしれないが効率的な身体の動かし方などもあったら良いと思う。

### 3.4.2 自衛消防組織の震災対応活動講習会

自衛消防組織の震災対応活動講習会では、大規模施設の地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および活動要領を学ぶことを目的とし、座学と実技の講習および図上演習を行った。以下に実施概要および実施状況（図 21）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 16、表 17 および図 22 に示す。

- ・ 題目：自衛消防組織の震災対応活動講習会
- ・ 目的：大規模施設の地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および活動要領を学ぶ
- ・ 日時：2016年9月16日（金）13:30～16:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟20階 第6会議室、21階 第5会議室
- ・ 講師：東京消防庁新宿消防署 自衛消防担当係長 消防司令 五十嵐 祐一 氏  
株式会社セノン 経営企画グループ統轄／取締役執行役員 上倉 秀之 氏  
株式会社セノン 教育部 課長 富樫 肇 氏  
鱒沢工学研究所 代表 鱒沢 曜 氏
- ・ 参加人数：36名
- ・ プログラム
  - 1) 座学講習
    - ① 講演「震災時における自衛消防活動」
    - ② 平成27年度訓練活動記録の紹介
  - 2) 実技講習
    - ① 消火器取扱い・避難誘導體験
    - ② 119番通報連絡体験
    - ③ 挟まれた人の救出体験
  - 3) 図上演習
    - 初動対応体験（本部隊と地区隊の情報共有）



図 21 自衛消防組織の震災対応活動講習会の実施状況

表 16 自衛消防組織の震災対応活動講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
36名	29名	80%

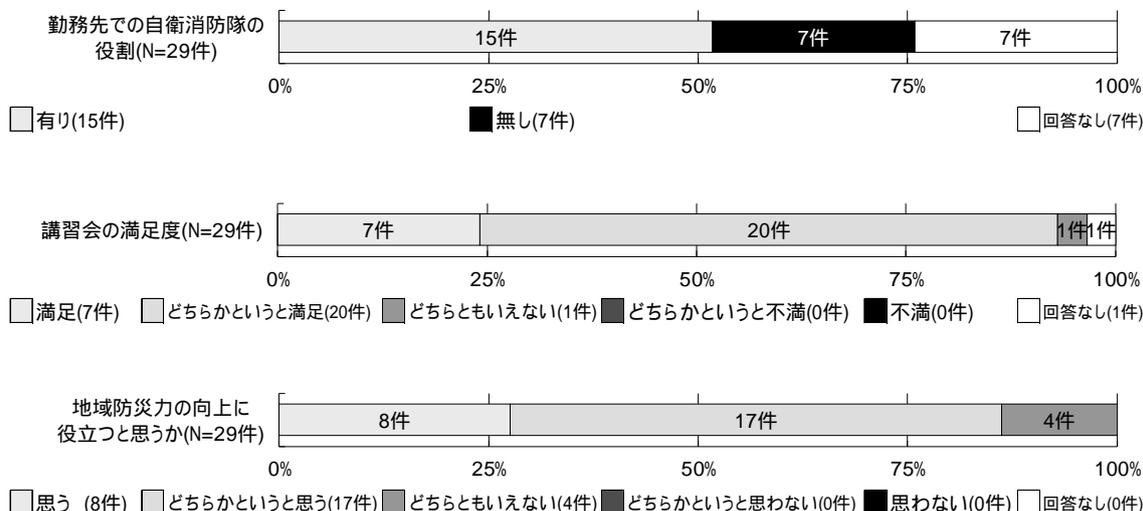


図 22 自衛消防組織の震災対応活動講習会アンケート調査結果概要

表 17 自衛消防組織の震災対応活動講習会アンケート調査結果概要

具体的に役立つと思う講習内容

- ・ 講義・・・平常火災、地震火災の対応の違いがわかりやすかった。地震対応初期の重要なポイントが理解できた。
- ・ 図上・・・本部隊として地区隊として各班がそれぞれのある階で何をすべきかを理解するトレーニングに役立つ内容だった。
- ・ ダミー消火器による模擬消火活動。
- ・ 避難誘導の実演。
- ・ 初めて図上演習を受講したが大変勉強になった。
- ・ 座学、消防署からの対応に関すること。消火器の使い方、訓練。
- ・ 火災発生後「火事だ」「避難して下さい」とあれぐらい大きな声を出さないといけないこと。
- ・ 図上訓練の内容。ただし、短時間のうちに急いでいたのか欲張りな内容となっていたと思う。
- ・ 消火時の姿勢、誘導のやり方、救出方法。
- ・ 図上訓練、特に本部隊。
- ・ 救出法など参考になった。
- ・ 図上演習情報収集及び、指示をどのように進めるか具体的に見える。
- ・ 119番通報の流れ、台本のセリフが役立った。
- ・ 救助実技。
- ・ 図上演習について、働いている人数から自分のところでは一人何役かしなくてはならないことが理解できたので良かった。
- ・ 実技講習で、観察でなく実践できた点。
- ・ 図上演習にて、手元の資料の内容をチームメンバーで読み解き、確認した点。
- ・ バールを使った救出活動。
- ・ 実技講習。
- ・ 実技はビルの訓練の参考になると思った。
- ・ 実技講習は良いと思いった。やったことがなかったため。
- ・ 図上演習、うまくいかなかったことが一番の勉強だった。これから会社でも取り入れていきたい。
- ・ バール、消火器の使い方について。

良かった点

- ・ 消火器の使用方法(風上に立つ、低い姿勢で、大きな声で)。

- ・ 避難誘導の実演(大きな声で、大きな動作で、火点から遠くへ)。
- ・ 図上演習。
- ・ 救出模擬訓練。
- ・ 訓練の必要性を感じた。
- ・ 本部他・地区隊のそれぞれの役割ごとにもっと訓練を実施するように働きかけたいと思う。
- ・ 図上演習については自分では初めての経験だった。頭ではわかっていることでも実際に動くことで身についたのではないかと思う。
- ・ 実技講習。
- ・ 基本事項からわかりやすく丁寧に説明していただいたので、今更聞いたり、確認したりできないようなことも改めて学ぶことができた。
- ・ 本部隊・地区隊の動き、役割。
- ・ 図上演習の際、繰り返し状況、必要な説明を行っていたのは理解しやすい。
- ・ 実技等の体験ができた事。東日本大震災時のデータを多数みることができた。
- ・ 様々な想定訓練が体験できた。
- ・ オフィス什器を利用した救出法の紹介。
- ・ 初期消火・避難誘導時の声出しの仕方の確認。
- ・ 図上訓練にて本部隊と地区隊を両方ウォークスルーしたこと。
- ・ 実技による救助活動。
- ・ 図上演習。
- ・ 実技講習が受けられた。
- ・ 実技講習は参考になった。
- ・ 地区隊・本部隊と両方体験できたこと。
- ・ いろいろな問題(地震時)が浮かび上がってきたこと。火災、救急、救助・・・etc

#### 改善点

- ・ 図上演習における各班の行動。
- ・ 地区隊と本部隊の役割分担について、もう少しわかりやすく。
- ・ 図上演習、もう少し段取りをこちら側にわかりやすく伝えてほしい。進行しながら、どうしたらよいか分からなかった。
- ・ 実技については社内の訓練で何回も経験している内容だった。おそらく他事業所でもそのような訓練はしていると思われる。
- ・ 図上演習については、条件付与が誰が発しているものかにより行動に違いがでてくると思うのでその旨をはっきりさせるのが望ましいと思う。
- ・ 図上をもう少し大きく区切って長い時間考えたい。
- ・ 応急救護所の受け入れルールをしっかりと決めてほしい。ケガ人といっても軽症から重症まであるので、最初に”歩ける人”、”意識がはっきりしていて話が出来る人”は地区隊で対応し、本部応急救護所には連れて行かないということを、周知徹底しておかないと実際の対応でも危ない。
- ・ プレイヤーとコントローラーを明確に定め、プレイヤーがやりやすくするようにする。
- ・ 場面設定をもう少し説明(理解)させてから実施していただきたい。
- ・ 図上訓練時のトレーナーの付与の内容と手法を精査すべき。
- ・ 地区隊と本部隊で情報が重複する。地区隊→本部の流れが無く、情報が本部へ伝わっていた。
- ・ 状況の理解、認識の共有にもう少し工夫が欲しい。
- ・ 安否確認はあえて外した?実働なら被害状況確認中に発見等スムーズかと思います。
- ・ 図上演習時の役割がうまく理解できなかった。(本部・地区隊の区切り)
- ・ 図上演習ではシナリオがないため、かなり戸惑った。
- ・ 図上演習の設定が分かりにくかった。
- ・ 隊長が全体の動き(指示内容)をつかみづらそうだった。
- ・ 図上演習は全般を見学する班(見取り)も必要だと思った。訓練参加者は全体が見えず、自分たちがどのように行動していたか忘れて(気づかない)いる場合があるため。
- ・ 全般的に想定が多すぎると感じた。(もう少し、ゆっくり検討してみたかった)

### 3.4.3 建物被害対応の実践トレーニング

建物被害対応の実践トレーニングでは、地震災害時の初動対応における建物調査の一連の流れを体験し、建築専門家でなくても行える建物調査の仕方を理解することを目的とし、超高層テナントビルを想定した建物被害確認調査と即時使用性判定の演習を行った。以下に実施概要および実施状況(図 23)を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 18、表 19 および図 24 に示す。

- ・ 題目：建物被害対応の実践トレーニング
- ・ 目的：地震災害時の初動対応における建物調査の一連の流れを体験し、建築専門家でなくても行える建物調査の仕方を理解する
- ・ 日時：2016年10月19日(水) 13:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階 アーバンテックホール
- ・ 講師：(株)大林組 技術研究所 構造技術研究部 主任研究員 諏訪 仁 氏  
(株)武設計 代表 ((一社)東京建築士会まちづくり委員会) 武居 由紀子 氏  
常葉大学 社会環境学部 教授 田中 聡 氏  
(株)イー・アール・エス エンジニアリング部 チーフエンジニア 中嶋 洋介 氏  
鱒沢工学研究所 代表 鱒沢 曜 氏  
ミズコシ・アンド・アソシエイツ 代表 水越 熏 氏  
工学院大学 客員研究員 宮村 正光 氏
- ・ 参加人数：24名
- ・ プログラム  
演習 ①テナント事業所地区隊として  
テナント内の被害確認と記録、防災センターへ伝達  
②防災センター本部隊として  
被害の集約、被害程度の調査、即時使用性判定  
③iPad・iPhoneによる建物被害調査(テナント事業所地区隊として)  
iPad・iPhoneを使用したテナント内の被害記録



図 23 建物被害対応の実践トレーニングの実施状況

表 18 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
24名	19名	79%

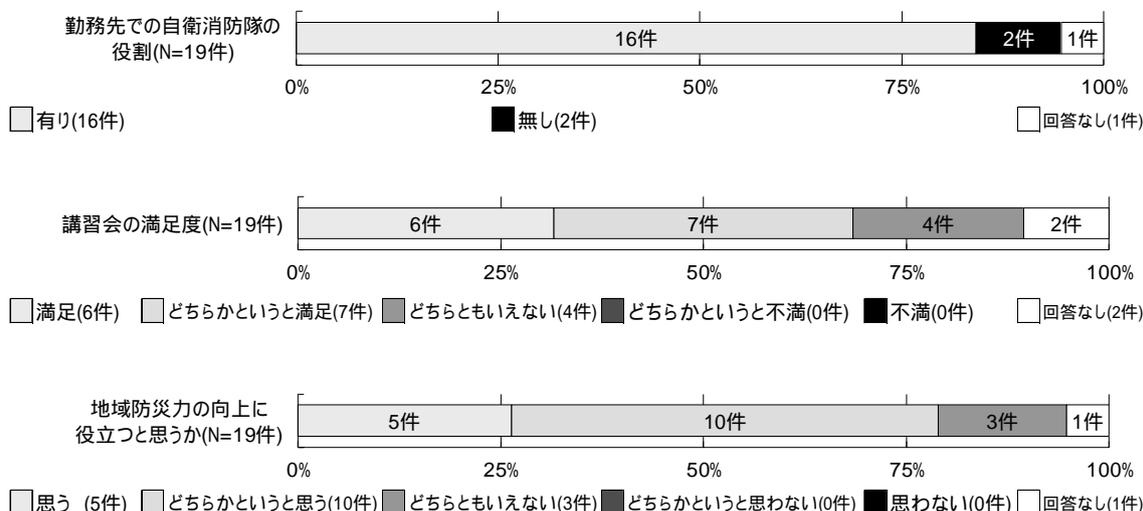


図 24 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要

表 19 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要

具体的に役立つと思う講習内容

- ・ 本部隊のチェックシート。
- ・ iPad を使った講習。
- ・ iPad, iPhone を使用した建物被害調査。
- ・ iPad を使用すると、写真で伝えることができるのでいいと思った。
- ・ iPad 使用。
- ・ ビル管理業として地震が起きた際に役立つ講習と思った。今日受けた講習を忘れずに活かしていきたい。
- ・ 被害箇所の確認とシートの転記について。
- ・ チェックシートを使用しフェーズ毎に進んでいく手順。
- ・ 建物チェックシートへの記入。
- ・ アイフォンを用いた演習。
- ・ テナントと本部隊の人間の協力。
- ・ 立入禁止区域の判断を自分が判断するのが難しい。
- ・ 立入禁止にするか、しないかの判断について。
- ・ 情報セキュリティについても検討した方が良いと思います。写真など（アイフォンの共有ソフトの場合）。
- ・ 短時間で建物判定が必要になった場合の手法として参考になった。

良かった点

- ・ 分かりやすい内容だった。
- ・ 具体的でわかりやすかった。
- ・ すぐに事務所で導入できるメニューであった。
- ・ iPad, iPhone 版建物被害調査アプリ。
- ・ 実際に写真を見ることで現場を想像できた。
- ・ 災害時に建物被害調査アプリを積極的に使用したいと思った。
- ・ iPad, チェックシート両方のやり方を学ぶことが出来たこと。
- ・ 練習としては良かった。
- ・ 最新の対応対策を学べた点。
- ・ 実演する部分。
- ・ PC・iPad 共に操作内容はわかりやすく簡単。

- ・ チェックシート、iPad の操作性など昨年より良くなってきている。
- ・ 被害部位の記号化と記入例により、短時間で報告が可能になると思った。

#### 改善点

- ・ 時間配分を、本部隊⇔地区隊+iPad の方が良いのでは？
- ・ 時間配分。
- ・ 時間がかかる被害状況調査と時間が掛からない iPad 調査を同じローテーションに入れているので効率的ではなかった。時間が厳しい場合は開始時間を早める。
- ・ 本部隊の説明を全体で一度行ってから各場所へ散らばるほうが全体の動きを把握しながら行えるのでいいと思った。
- ・ 時間が若干押していた。
- ・ 時間が足りなく、昨年同様に第三回目が殆ど出来なかった。超高層以外のバージョンも作成していただきたい。
- ・ テナントへの周知トレーニングは難しい。

### 3.4.4 現地本部運営シミュレーション訓練

現地本部運営シミュレーション訓練では、現地本部の役割と運営手順をロールプレイング形式の図上演習で学ぶことを目的とし、西口現地本部を例に現地本部の運営の図上演習を行った。以下に実施概要および実施状況（図 25）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の一部を表 20、表 21 および図 26 に示す。

- ・ 題目：現地本部運営シミュレーション訓練
- ・ 目的：現地本部の役割と運営手順をロールプレイング形式の図上演習で学ぶ
- ・ 日時：2016年10月26日（水）14:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1・第2会議室
- ・ 講師：減災アトリエ主宰 総務省消防庁防災図上演習指導員 鈴木 光 氏
- ・ 参加人数：15名
- ・ プログラム

図上演習「現地本部運営シミュレーション訓練」

- ①フェーズⅠ（発災） 混乱の収束まで
- ②フェーズⅡ（残留） 一時滞在施設の開設まで
- ③フェーズⅢ（滞在） 交通機関の復旧（代替輸送手段の確保）まで



図 25 現地本部運営シミュレーション訓練の実施状況

表 20 現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
15名	15名	87%

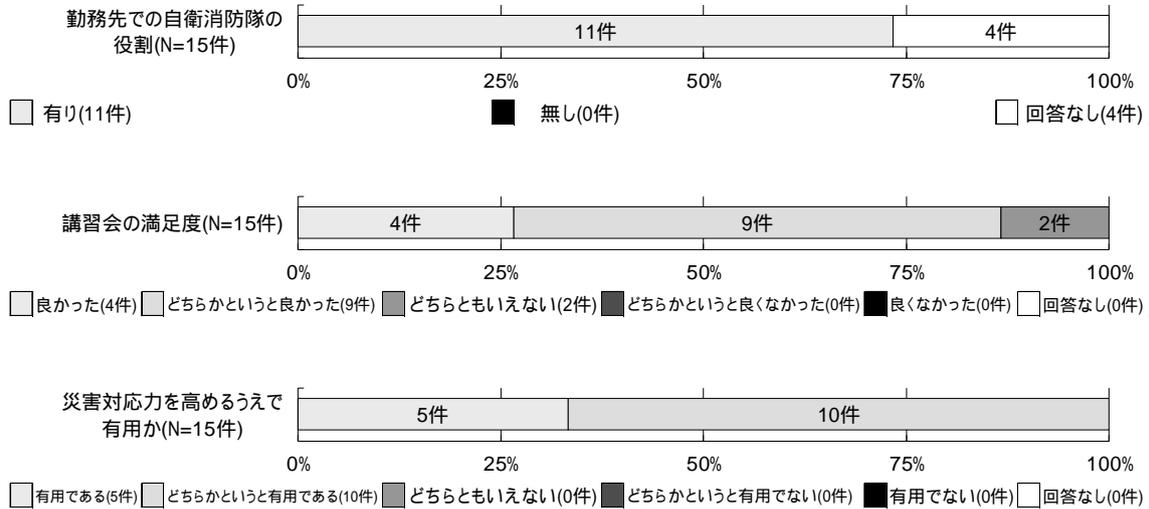


図 26 現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要

表 21 現地本部運営シミュレーション訓練アンケート調査結果概要

<p>「上手くできた」と思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本部長が昨年も参加していたので、いい指導をしてくれた。</li> <li>・ 昨年も参加したので。</li> <li>・ 付与票を時間内に処理できた。</li> <li>・ タブレットに入力したこと。</li> <li>・ 付与票の処理をするスピードは早かった。すべての付与票の処理を隊長を通してできた。</li> <li>・ 付与される情報を随時処理できた。</li> <li>・ 反省のみである。</li> </ul> <p>「上手くできなかった」と思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初めての参加、シミュレーション内容を知ってから始めた方が理解しやすいのではないかな。</li> <li>・ 一部手書き処理が大変（避難所開設情報）。</li> <li>・ 全情報をあまりよく認識できなかつた。</li> <li>・ 昨年に無かつたこと。</li> <li>・ 役割の分担・用具等の活用。</li> <li>・ 情報の優先順位をつけずに届いた物から処理していた。ボランティアの状況の把握を班内で出来なかつた。</li> <li>・ 情報の整理 情報をどう利用するか。</li> <li>・ 初めてだったので迷うことがたくさんあつたが、次回にはこの経験を生かせよう。</li> <li>・ 何をやっているのかを理解する前に物事が進んでいた。</li> <li>・ 情報が少ない中での判断がうまくいかなかつた。</li> <li>・ ～に避難誘導してよいか？等の質問に対して。</li> <li>・ タブレット入力に集中してうまく班員と協力できなかつたこと。</li> <li>・ それぞれの役割が不明確なままだった。（付与票の処理で忙しかつた）ホワイトボードなどへの転記がされていない情報が多くみられた。</li> <li>・ 役割の分担が明確にならずに、各者が入る情報に対応してしまつた。</li> <li>・ 記入作業が大変なので、「手書きする作業」を分業もしくは、人数を増やしたほうがいい。</li> <li>・ 数値を集計・把握すればよかつた。</li> <li>・ 情報のトリアージ。</li> <li>・ 班内の役割分担があまり明確に意識できなかつた。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ・ 手順書をほとんど確認できなかった。
- ・ 情報に追われてしまった。優先順位をつけることができなかった。

西口現地本部に期待する役割、西口現地本部から提供してほしい情報

- ・ 公共機関が発表しているもののみの方が、情報セキュリティ上、安全だと思う。
- ・ 全体像が分かる情報（概況）。
- ・ 滞留者に対する情報提供。
- ・ けが人の搬送や帰宅困難者の受け入れ状況、資機材の有無（どのくらい保有しているのか？）。

### 3.5 新宿防災ウィークの概要

総合防災訓練実施日の11月10日から10日間を新宿防災ウィークとし、防災関連行事への参加、ワークショップの開催、イベントの周知を行った。実施概要を以下に示す。

#### (1) 東京都帰宅困難者対策フォーラム

東京都が開催する平成28年度東京都帰宅困難者対策フォーラムに参加し、新宿駅周辺防災対策協議会の活動を紹介するとともに、他地域の協議会等との意見交換を行った。以下に実施概要および実施状況(図27)を示す。

- ・ 題目：平成28年度東京都帰宅困難者対策フォーラム
- ・ 日時：2016年11月16日(水) 15:00～17:45
- ・ 会場：東京都庁第一本庁舎9階 防災センター、通信室
- ・ 主催：東京都総務局総合防災部
- ・ プログラム

挨拶

都の帰宅困難者対策の取組

講演「地域の特性に応じた帰宅困難者対策と一時滞在施設の運営について」

パネルディスカッション

コーディネーター：東京大学大学院都市工学専攻 准教授 廣井悠 氏

パネラー：区または協議会代表者、都 等

議題：駅前滞留者対策について

意見交換会

グループに分かれて意見交換(区市町村ごとにグループ分け)

区市町村ごとに協議会や帰宅困難者対策の取組発表

意見交換



図 27 平成28年度東京都帰宅困難者対策フォーラムの実施状況

## (2) 新宿駅周辺商店街の皆様とともに取り組む「おもてなし」の防災まちづくり

新宿駅前商店街振興組合が主催する新宿駅周辺商店街の皆様とともに取り組む「おもてなし」の防災まちづくりの講演会を協議会員に周知した。以下に実施概要および実施状況（図 28）を示す。

- ・ 題目：新宿駅周辺商店街の皆様とともに取り組む「おもてなし」の防災まちづくり
- ・ 日時：2016年11月17日（木）14:00～16:10
- ・ 会場：三平本館ビル7階 大会議室
- ・ 主催：新宿駅周辺商店街
- ・ プログラム

### 開会

会の趣旨説明 新宿駅前商店街振興組合 和田 専務理事

ご挨拶 新宿駅前商店街振興組合 蛭川 理事長

### 来賓挨拶

新宿区長 吉住 健一 氏

新宿区区議会議員 下村 治生 氏

新宿消防署 地域防災担当課長 田中 富也 氏

新宿区消防団団長 岩田 千明 氏

### 講演

新宿駅周辺防災対策協議会の取組み～新宿ルール実践のための行動指針～

新宿区危機管理担当部危機管理課長 鯨井 庸司 氏

新宿駅周辺地域の防災活動の動向と新宿駅周辺商店街に期待すること

工学院大学建築学部まちづくり学科 教授/TKK 助け合い連携センター長 村上 正浩 氏

### 閉会の挨拶

新宿駅前商店街振興組合 川島 副理事長



図 28 新宿駅周辺商店街の皆様とともに取り組む「おもてなし」の防災まちづくりの実施状況

### (3) 気象庁ワークショップ

気象庁および日本赤十字社東京都支部の協力により、大雨による災害をテーマとするワークショップを開催した。以下に実施概要および実施状況（図 29）を示す。

- ・ 題目：気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」
- ・ 日時：2016年11月18日（金）14:00～18:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス高層棟 28階 第1会議室
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会
- ・ 協力：気象庁、日本赤十字社東京都支部
- ・ 参加者数：26名
- ・ プログラム

開会挨拶

ワークショップ

ファシリテーター：菊池 真以 氏（気象予報士、防災士）

専門知識等の解説等：上原 秀晴 氏（東京管区气象台 気象防災部 防災調査課）

閉会挨拶、事務連絡



図 29 気象庁ワークショップの実施状況

#### (4) 備蓄の日フェスタ

東京都が開催する備蓄の日フェスタの催しを協議会員へ周知した。以下に実施概要および実施状況（図 30）を示す。

- ・ 題目：備蓄の日フェスタ 2016～災害に備えて日常備蓄！～
  - ・ 日時：2016年11月19日（土）12:00～17:00
  - ・ 会場：新宿駅西口広場イベントコーナー B1・B2ゾーン
  - ・ 主催：東京都総務局総合防災部
  - ・ プログラム
    - 「日常備蓄」や「在宅避難」等への理解を深めるミニセミナー
    - (1) 家庭の防災対策と日常備蓄について 常葉大学大学院 教授 重川 希志依 氏
    - (2) 日常備蓄を活用した災害食レシピについて イラストレーター 草野 かおる 氏
    - (3) 防災グッズの選び方と優先順位～非常用持出品と備蓄用品の違いとは？～  
ソナエルワークス 備え・防災アドバイザー 高荷 智也 氏
- 在宅避難に役立つ防災対策の展示・紹介（関係局・機関）
- ・ 東京都総務局総合防災部（備蓄品目サンプルの展示など）
  - ・ 東京都水道局（災害時給水ステーションの紹介など）
  - ・ 一般社団法人危機管理教育研究所（ワークショップ：家具転倒防止チャレンジ）
  - ・ 公益財団法人市民防災研究所（ワークショップ：身近にあるもので作るランプづくり体験）
  - ・ 日本災害食学会（非常食の普通食化への取組）
  - ・ 特定非営利活動法人日本トイレ研究所（災害時のトイレ確保）
  - ・ 一般社団法人防災安全協会（防災用品の展示）
  - ・ 一般社団法人マンションライフ継続支援協会（マンション生活継続計画について）
- その他
- ・ 場内アンケートの回答者を対象に自宅での生活継続に役立つ防災グッズを配布（数量限定）
  - ・ 「東京防災」公式キャラクター「防サイくん」も来場（ミニセミナー各回の15分前を予定）



図 30 備蓄の日フェスタ2016の実施状況

### 3.6 総合防災訓練の概要

#### 3.6.1 訓練の目的

首都直下地震発生時の人口・商業業務機能が集中する新宿駅周辺地域における混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化および自助・共助を基本とする地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を新宿駅東口地域および西口地域において実施した。

#### 3.6.2 基本方針

「新宿モデル」（情報収集伝達、避難誘導支援、医療連携、建物安全確認のしくみづくり）の実現に向けて、新宿駅周辺防災対策協議会を中心に各事業者や施設等における災害対応、地域連携による情報収集伝達や医療救護などの「自助」および「共助」を基本とする訓練とする。

#### 3.6.3 訓練実施概要

本訓練では、首都直下地震による発災直後の状況および発災後一定程度時間が経過した状況を想定し、東西それぞれの地域特性に応じた場面設定に基づき訓練を実施した。表 22、図 31 に新宿駅東口地域地震防災訓練の実施概要および訓練実施状況、表 23、図 32 には新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要および訓練実施状況を示す。

##### (1) 新宿駅東口地域

- ・ 訓練名称：平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅東口地域地震防災訓練
- ・ 日 時：平成 28 年 11 月 10 日（木）13:00～16:00
- ・ 場 所：新宿区役所第一分庁舎 1 階（新宿区歌舞伎町 1-5-1）  
東京都健康プラザ ハイジア（新宿区歌舞伎町 2-4-4-1）
- ・ 内 容：東口現地本部設置・運営訓練、負傷者搬送訓練、負傷者対応訓練
- ・ 参加者数：約 100 名（運営参加者含む）
- ・ 参加団体：約 20 団体

##### (2) 新宿駅西口地域

- ・ 訓練名称：平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅西口地域地震防災訓練
- ・ 日 時：平成 28 年 11 月 10 日（木）13:30～17:00
- ・ 場 所：工学院大学 新宿キャンパス（新宿区西新宿 1-2-4-2）、他
- ・ 内 容：自衛消防訓練（震災対応訓練）、医療救護訓練、西口現地本部訓練
- ・ 参加者数：約 250 名（運営参加者含む）
- ・ 参加団体：約 70 団体

##### 【参加及び協力団体】

新宿駅周辺防災対策協議会参加団体及び関係事業所、新宿区医師会、東京医科大学病院、東京女子医科大学病院、国立国際医療研究センター病院、大久保病院、日本赤十字社東京都支部、新宿消防署、四谷消防署、新宿警察署、四谷警察署、工学院大学、東京都健康プラザハイジア、東京都、東京建築士会、危機管理対策機構、鱒沢工学研究所、白山工業株式会社、株式会社セノン（順不同）

表 22 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施概要

10/27 (木)	事前訓練	日時：10月27日(木) 13:15～16:00 会場：人材育成センター研修室A(新宿区西新宿7-5-8) 内容：様々な状況を想定した図上訓練を事前に実施(訓練事前説明会とあわせて実施)
11/10 (木)	①現地本部の設置及び運営訓練	日時：11月10日(木) 13:00～16:00 会場：新宿区役所第一分庁舎 1階 内容： ・東口現地本部の立上げ、情報共有・伝達訓練 ・西口現地本部、新宿区災害対策本部との通信訓練
	②負傷者搬送訓練	日時：11月10日(木) 13:00～16:00 会場：新宿区役所第一分庁舎から東京都健康プラザ ハイジア1階 内容： ・負傷者の搬送の順位判定 ・東口現地本部からハイジアまでの負傷者搬送訓練(ダミー人形での搬送)
	③負傷者対応訓練	日時：11月10日(木) 13:00～16:00 会場：東京都健康プラザ ハイジア1階 内容： ・応急救護所(仮)及びトリアージポストの設置 ・新宿区医師会と大久保病院の医療従事者によるトリアージ、中軽傷者の応急手当訓練 ・重傷者の大久保病院への搬送及び医療処置訓練
12/8 (木)	訓練検証会	日時：12月8日(木) 15:30～17:00 会場：人材育成センター研修室B(新宿区西新宿7-5-8) 内容： ・訓練報告・意見交換 ・日本赤十字社東京都支部 災害救護訓練について ・質疑応答

表 23 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要

11/1 (火)	訓練参加者 説明会	日時：11月1日（火）14：30～17：00 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟5階A0511室他 内容：訓練参加者を対象に、訓練の詳細および参加者の役割分担等を確認し、一部搬送等の練習を実施
11/10 (木)	①自衛消防訓練 (震災対応訓練)	日時：11月10日（木）13：30～16：30 会場：工学院大学新宿キャンパス 1階・3階・地下1階 <u>訓練目標</u> ①事業所やビルでの災害対応活動の実効性を高める ②地区隊と本部隊が協力、連携して自衛消防活動を実践する ③地域の関係機関と情報を共有する <u>場面設定</u> ・都区部直下地震（M7.3）発災直後および発災数時間後 ・仮想超高層テナントビルにおける初動対応 <u>参加者数</u> （運営参加者を除く） 34名 <u>実施項目</u> <b>【発災直後の場面（前半）】</b> ・自衛消防隊編成（本部隊・地区隊）、災害対策本部立ち上げ ・火災対応（火災確認、初期消火）、避難誘導（鎮火後建物内対応） ・救出対応（閉じ込められた人・挟まれた人の確認、救出、安否確認） ・傷病者対応（傷病者確認、応急手当、観察記録、応急救護所立上げ） ・建物被害確認フェーズ1（建物内残留可否の判定） <b>【発災数時間後の場面（後半）】</b> ・傷病者対応（情報収集・伝達、搬送） ・建物被害確認フェーズ2（建物内部使用性の判定） ・被害情報の把握 ・西口現地本部との情報共有 ・帰宅困難者の受け入れ判断
	②医療救護訓練	日時：11月10日（木）13：30～16：30 会場：工学院大学新宿キャンパス 1階、他 <u>訓練目標</u> （事業所参加者の目標） ①トリアージについて正しく理解する ②多数傷病者への対応を体験する ③医療従事者とのコミュニケーションスキルを身につける <u>場面設定</u> ・都区部直下地震（M7.3）発災数時間後以降 ・災害拠点病院近隣の仮想緊急医療救護所における傷病者対応 <u>参加者数</u> （運営参加者を除く） 59名 <u>実施項目</u> <b>【発災数時間後以降の場面】</b> ・仮想緊急医療救護所の立ち上げ ・傷病者の受け入れ ・トリアージ、診察、処置、搬送の決定（医療救護班） ・応急手当、観察、搬送（応急救護班） ・情報収集・伝達、医療救護本部との連絡・重症者搬送先の確認（情報連絡班） ・仮想緊急医療救護所との連絡・重症者搬送先の指示（医療救護本部）

	<p>③西口現地本部 訓練</p>	<p>日時：11月10日（木）13:30～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 2階、他</p> <p><u>訓練目標</u></p> <p>①西口現地本部の役割を知る ②西口現地本部運営手順を知る ③新宿ルール実践のための行動指針及び手順書の実効性の検証</p> <p><u>場面設定</u></p> <p>・都区部直下地震（M7.3）によるフェーズⅠ（発災）、フェーズⅡ（残留・退避）、フェーズⅢ（滞在）、フェーズⅣ（帰宅）の対応</p> <p><u>参加者数</u>（運営参加者を除く） 51名</p> <p><u>実施項目</u></p> <p>フェーズⅠ【発災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西口現地本部の立ち上げ・開設</li> <li>・地域内ビル防災センターや関係機関との情報連絡・情報共有</li> <li>・滞留者の避難誘導先の情報提供</li> </ul> <p>フェーズⅡ【残留・退避】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿駅周辺地域および広域の被災状況の把握</li> <li>・地域内ビル防災センターや関係機関への情報提供</li> <li>・サイネージも活用した避難場所への誘導</li> </ul> <p>フェーズⅢ【滞在】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の滞留者受入れ可否状況の把握</li> <li>・一時滞在施設情報の情報提供</li> <li>・ボランティアや専門家派遣に必要な情報の把握</li> <li>・物資や人材等の調整</li> </ul> <p>フェーズⅣ【帰宅】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道再開情報の共有</li> <li>・一時滞在施設の順次閉鎖</li> <li>・帰宅開始</li> </ul>
	<p>講評会</p>	<p>日時：11月10日（木）16:30～17:00 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階アーバンテックホール 内容：訓練の講評およびアンケート調査</p>
<p>12/14 （木）</p>	<p>訓練検証会</p>	<p>日時：12月14日（木）14:00～16:30 会場：新宿区役所本庁舎 5階大会議室 目的：地震防災訓練の実施内容をふりかえり成果と課題を検証する 参加者数（運営参加者を除く）：26名</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練実施報告</li> <li>・訓練の検証（ワークショップ）</li> </ul>



図 31 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施状況（左上：現地本部の設置および運営訓練、右上：負傷者搬送訓練、左下：負傷者対応訓練、右下：訓練検証会）

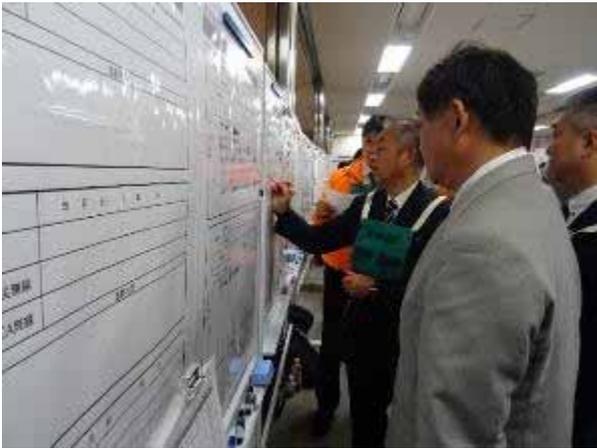


図 32 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施状況（左上：自衛消防訓練（震災対応訓練）、右上：医療救護訓練、左下：西口現地本部訓練、右下：訓練検証会）

### 3.7 ホームページによる情報発信

平成27年度に開設した新宿駅周辺防災対策協議会のホームページ（図33）<sup>[38]</sup>において、平成28年度に実施した総会、セミナー、講習会等の活動履歴の公開および年間活動予定等の情報発信を行った。



図 33 新宿駅周辺防災対策協議会Webサイト  
 ([http://kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa\\_bousai/index.html](http://kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa_bousai/index.html))

## 第4章 おわりに

本報告書では、新宿駅周辺エリアの特徴と新宿駅周辺防災対策協議会における活動概要を紹介するとともに、地域の災害対応力の向上を目的として新宿駅周辺防災対策協議会が平成 28 年度に実施した教育訓練プログラムについて報告した。具体的には、教育訓練プログラムの構成を示し、平成 28 年度総会、セミナー、講習会、防災ウィークおよび総合防災訓練における活動内容とその結果を報告した。

## 参考文献

- [1] 新宿駅周辺地域都市再生緊急整備協議会：新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画  
[http://www.city.shinjuku.lg.jp/anzen/kikikanri01\\_000110.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/anzen/kikikanri01_000110.html)
- [2] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 24 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 セミナー及び講習会 年間活動報告，Mar. 2013.
- [3] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 24 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 平成 24 年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書，Mar. 2013.
- [4] 久田嘉章，村上正浩，宮村正光，鱒沢曜，諏訪仁，新藤淳，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 1：新宿駅西口地域における取組みの概要”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1193-1194，Aug. 2013.
- [5] 鱒沢曜，久田嘉章，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 2：建物内および地域の医療救護所における傷病者対応”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1195-1196，Aug. 2013.
- [6] 飯塚章仁，鱒沢曜，久田嘉章，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 3：テナント事業者による建物被害確認と情報集約”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1197-1198，Aug. 2013.
- [7] 宮村正光，諏訪仁，久田嘉章，村上正浩，鱒沢曜，飯塚章仁，“超高層ビル街における地震後の傷病者への対応，建物の被害確認と継続使用性判定に関する研究 その 4：建物管理者による即時使用性判定”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1199-1200，Aug. 2013.
- [8] 村上正浩，久田嘉章，新藤淳，鱒沢曜，“地域防災拠点としての大学を目指して”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1163-1164，Aug. 2013.
- [9] 鱒沢曜，久田嘉章，田中聡，宮村正光，諏訪仁，飯塚章仁，“超高層ビル街における災害時の建物被害確認と情報集約に関する研究”，日本地震工学会大会 2013 年梗概集，pp. 13-14，Nov. 2013.
- [10] 鱒沢曜，諏訪仁，“新宿駅周辺におけるエリア防災の取り組み その 1：建物即時使用性の判定と多数傷病者への対応”，日本建築学会 巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会 公開研究会資料，Dec. 2013.
- [11] 村上正浩，“新宿駅周辺におけるエリア防災の取り組み その 2：都市再生安全確保計画と今後の対応”，日本建築学会 巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会 公開研究会資料，Dec. 2013.
- [12] Yoe Masuzawa, Yoshiaki Hisada, Masahiro Murakami, Jun Shindo, Masamitsu Miyamura, Hitoshi Suwa, Satoshi Tanaka, Kaoru Mizukoshi and Yosuke Nakajima: Practice on an Education and Training Program to Development of Response Literacy to Earthquake Disaster in a Central Business District in Japan, Journal of Disaster Research, Vol.9 No.2, Mar. 2014, pp. 216-236.
- [13] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 25 年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書，Mar. 2014.
- [14] 新宿駅周辺防災対策協議会：平成 25 年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書，Mar. 2014.

- [15]本橋直之，鱒沢曜，田中聡，久田嘉章，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 その1：テナント入居者による建物被害確認と情報集約”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 125-126, Sep. 2014.
- [16]田中聡，鱒沢曜，水越熏，中嶋洋介，久田嘉章，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 その2：携帯情報端末を活用した建物被害調査システム”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 127-128, Sep. 2014.
- [17]湯澤伸伍，宮村正光，諏訪仁，久田嘉章，鱒沢曜，田中聡，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 その3：建物管理者による即時使用性判定法の提案と訓練での検証”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 129-130, Sep. 2014.
- [18]村上正浩，新藤淳，久田嘉章，“新宿駅周辺地域を対象とした都心業務地域のエリア防災に関する研究 その1：都市再生安全確保計画と今後の課題”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1405-1414, Dec. 2014.
- [19]新藤淳，村上正浩，久田嘉章，“新宿駅周辺地域を対象とした都心業務地域のエリア防災に関する研究 その2：地域連携による危機対応とその標準化”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1415-1423, Dec. 2014.
- [20]鱒沢曜，久田嘉章，村上正浩，新藤淳，“中心市街地の地震災害への対応力を高める教育訓練と傷病者対応の取組み”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1424-1433, Dec. 2014.
- [21]本橋直之，鱒沢曜，田中聡，久田嘉章，水越熏，中嶋洋介，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と情報集約手法の検討”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1486-1495, Dec. 2014.
- [22]諏訪仁，宮村正光，久田嘉章，村上正浩，鱒沢曜，児島帝二，武居由紀子，湯澤伸伍，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 -建物管理者による即時使用性判定法の提案と訓練での検証-”，第14回日本地震工学シンポジウム論文集，pp. 1481-1485, Dec. 2014.
- [23]湯澤伸伍，宮村正光，諏訪仁，久田嘉章，鱒沢曜，児島帝二，“超高層ビル街における地震後の建物被害確認と即時使用性判定に関する研究 -建物管理者による即時使用性判定法の提案と訓練での検証-”，社会貢献学会第5回大会予稿集，Dec. 2014.
- [24]本橋直之，鱒沢曜，久田嘉章，田中聡，宮村正光，諏訪仁，“超高層ビルにおける地震後の建物被害確認と情報集約について”，社会貢献学会第5回大会予稿集，Dec. 2014.
- [25]新宿駅周辺防災対策協議会：平成26年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書，Mar. 2015.
- [26]新宿駅周辺防災対策協議会：平成26年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書，Mar. 2015.
- [27]鱒沢曜，久田嘉章，村上正浩，新藤淳，“超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その1：自衛消防組織による震災対応訓練モデル”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1011-1012, Sep. 2015.
- [28]本橋直之，鱒沢曜，田中聡，久田嘉章，宮村正光，諏訪仁，“超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その2：建物被害確認・情報集約手法の改善と訓練での検証”，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1013-1014, Sep. 2015.

- [29]田中聡, 鱒沢曜, 水越熏, 中嶋洋介, 久田嘉章, “超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その3 : 携帯情報端末を活用した建物被害調査システムの改善と訓練での検証”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1015-1016, Sep. 2015.
- [30]湯澤伸伍, 宮村正光, 諏訪仁, 鱒沢曜, 久田嘉章, 児島帝二, “超高層テナントビルを想定した震災対応訓練と建物被害調査に関する研究 その4 : 即時使用性判定手法の改善と訓練での検証”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1017-1018, Sep. 2015.
- [31]新宿駅周辺防災対策協議会 : 平成 27 年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動 報告書, Mar. 2016.
- [32]新宿駅周辺防災対策協議会 : 平成 27 年度 新宿駅西口地域地震防災訓練 報告書, Mar. 2016.
- [33]鱒沢曜, 久田嘉章, 村上正浩, 新藤淳 : 中心市街地の地震災害への対応力を高める教育訓練と傷病者対応の取組み, 日本地震工学会論文集, Apr. 2016.
- [34]本橋直之, 鱒沢曜, 田中聡, 久田嘉章, 水越熏, 中嶋洋介, 宮村正光, 諏訪仁 : 超高層テナントビルにおける地震後の建物被害確認と情報集約手法の検討, 日本地震工学会論文集, Apr. 2016.
- [35]鱒沢曜, 本橋直之, 田中聡, 水越熏, 中嶋洋介, 久田嘉章, 宮村正光, 諏訪仁 : “超高層ビルにおける地震後の建物被害情報収集に関する研究 その1 : 自衛消防組織を活用した手法の改善”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, Aug. 2016.
- [36]本橋直之, 鱒沢曜, 田中聡, 水越熏, 中嶋洋介, 久田嘉章, 宮村正光, 諏訪仁 : “超高層ビルにおける地震後の建物被害情報収集に関する研究 その2 : 自衛消防訓練による検証”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, Aug. 2016.
- [37]田中聡, 鱒沢曜, 本橋直之, 水越熏, 中嶋洋介, 久田嘉章 : “超高層ビルにおける地震後の建物被害情報収集に関する研究 その3 : 携帯情報端末を活用した情報収集”, 日本建築学会大会学術講演梗概集, Aug. 2016.
- [38]新宿駅周辺防災対策協議会 Web サイト : [http://kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa\\_bousai/index.html](http://kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa_bousai/index.html)